

2013年4月15日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、なお弱めながらも、持ち直しに向けた動きが徐々に広がりつつある。

すなわち、輸出は、海外経済減速などの影響から減少しているが、一部に持ち直しの動きもみられている。個人消費は、消費者マインドの改善などから、底堅い動きになっている。設備投資は、製造業が弱めとなっており、持ち直しは緩やかとなっている。公共投資は、増加している。こうした中、企業の景況感は小幅ながら改善しており、生産には下げ止まりの動きがみられている。また、雇用情勢も改善に転じつつある。

先行きについては、海外経済、為替相場、国際商品市況の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、海外経済減速などの影響から減少しているが、一部に持ち直しの動きもみられている。

設備投資は、非製造業が堅調に推移しているものの、製造業が弱めとなっており、持ち直しは緩やかとなっている。

個人消費は、消費者マインドの改善などから、底堅い動きになっている。

2月は、百貨店は、増床効果などから、前年を上回っている。スーパーは、弱めの動きが続いている。家電販売は、薄型テレビなどの販売低調から、前年を下回っている。乗用車販売は、前年を下回っている。外食売上高は、下げ止まりつつある。旅行取扱高は、持ち直しの動きがみられている。

住宅投資は、緩やかに増加している。

2月の住宅着工は、持家、分譲、貸家のいずれも前年を上回った。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、下げ止まりの動きがみられている。この間、在庫は、やや高めの水準で横ばい圏内の動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は改善に転じつつある。雇用者所得は、賃金が弱い動きとなっているものの、振れを均してみると、なお横ばい圏内の動きとなっている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、小幅のマイナスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかに増加している。

貸出残高は、前年を上回っている。これは、住宅ローンの伸び率が幾分拡大する中、企業向け貸出において、資金需要は全体としてみれば引き続き乏しいものの、一部で海外進出関連等の貸出が増加したためである。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上